

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000161		
法人名	ケア21		
事業所名	たのしい家 八戸ノ里 (ユニット1)		
所在地	東大阪市下小阪4-4-13		
自己評価作成日	平成25年5月31日	評価結果市町村受理日	平成25年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員・入居者が自由に生き生きと暮らせる(働ける)ような環境を作るようにする。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000161-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年6月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目を迎える当該ホームは、管理者が現場第一主義、徹底討論・徹底和解の経営理念を特に大切に考え働きやすい環境づくりに力を入れており、法人の取り組みである職員同士でほめ合う「ほめカード」を積極的に取り入れ職員の士気を高めています。開設からほとんど職員の入れ替わりが無く馴染みの関係が出来ており、職員は利用者にとって第二の家として自由に楽しく暮らしてもらえる場が提供出来るように一丸となってケアにあたっています。居室担当制を設け利用者一人ひとりと深く関わり合いながら家族にも相談して希望を把握し、個別で1日外出や食事をする機会を設け利用者の喜びにつながっています。また、地域との関わりでは運営推進会議で情報を得たり、ホーム側からの働きかけで小学校の運動会を観に行くなど、少しずつ交流の場を持っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りじに会社の行動指針と経営理念の読み合わせをしている。	8項目の法人経営理念を2階ユニット玄関前に掲示し、毎朝読み合わせをしています。その中でも現場第一主義と徹底討論・徹底和解を大切に考え何でも話し合いながら日々のケアにあたっています。	地域密着型サービスとしてホームで何を大切にケアに取り組まれているかを職員間で話し合い、独自の理念を作成されては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには参加している。	自治会に加入しています。近所の他法人の施設での夏祭りや地域包括の夏祭り、バザーに参加したり、管理者の働きかけで実現した小学校の運動会を観に行ったりしています。近所の方には散歩の際に挨拶をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントへの参加は去年より出来ているので理解も得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見は率直に受け入れ改善出来ているし今後は自治会長の参加も考えている。	会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に一回開催しています。ホームの取り組み状況を報告し、参加者からは地域の情報を得たり、車椅子の講習をもらっています。また歩行についての要望をもらい、検討しサービスの向上に活かされる有意義な場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できる限り訪れるようにし市の開催する集団指導等の研修には参加している。	管理者は申請書類の提出時に郵送ではなくなるべく市役所に出向き、担当者と顔を合わせています。また市からは研修の案内があり参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は研修に参加し職員に伝達研修をし意識を高めている。	身体拘束についての研修が年1回法人内で実施され、管理者が参加し、ホーム会議の際に伝達研修を行っています。入居前に行っていた拘束については入居後家族と話し合いながら徐々になくすように取り組まれています。玄関とユニット入口が施錠されていますが、外出したい場合は職員と一緒に同行しています。	カンファレンスの際に施錠について話し合われていますが、具体的な内容にまで至っていません。今後施錠しない時間を少しでも作るなど、職員間での検討が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修に参加し職員に伝達研修をし意識を高めている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	要望があれば資料請求や支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族が疑問や質問があれば納得されるまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見・要望はその都度、改善している。	面会時や電話、運営推進会議、行事の際にも家族に参加してもらい、意見や要望を聴き取るよう努めています。また年に1回家族アンケートを取っています。得られた意見については職員間で話し合わせ改善に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や1日/2回に申し送りで意見を聞いている。	月1回の職員会議の他、毎日2回実施されている申し送りの際に活発に意見交換がなされています。また管理者は日常的に職員と話をするようにしています。業務についての意見があった際は職員間で話し合い、ケアの流れをよくするなど職員の意見や提案を取り入れ運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な訪問、人事考課、ほめカード、従業員満足アンケートにより職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画を立て研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加してもらい意見交換している。近隣のグループホームの管理者との情報の交換をしている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い本人の性格や生活歴を把握し安心感を持てるように関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望に沿って関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって最良のサービス家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多く、意見を参考にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を把握しより良い関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望・要望により馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	以前住んでいた近所の方にホームに来てもらう支援や以前勤めていたところへ散歩を兼ねて訪問出来るように働きかけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めています。また家族から情報を聞いて個別に馴染みの場所を訪れる取り組みも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話の橋渡しなど行い孤立しないように務めている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望がある時は相談・支援を務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿うように務めている。	入居時に本人・家族から得られた情報をまとめ、日々コミュニケーションをとりながら希望や意向を聞いています。困難な場合は家族に聞いたり、表情や動作から検討するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活環境をアセスメントを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事的能力を把握し自尊心を傷つけないように支援に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見が出た場合は家族と話し合い施行し適している場合は介護計画に反映している。	ケアチェック表を基にアセスメントを行い、家族や職員の意見を聞きながら一人ひとりに合った介護計画が作成されています。毎月利用者全員のカンファレンスを行い、定期的にモニタリングを実施し、計画は基本的に6ヶ月毎に見直しています。また必要があれば医師や看護師の意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は介護記録に記入し、申し送り時に気づいた事は職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や精神的に日々若干異なるのでその都度対応を変えている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の散歩や買い物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は2週間に1、歯科は1週間に1回、の往診がある。	入居時に以前のかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在の利用者はホームの協力医に変更しています。協力医による往診、歯科往診以外に週1回看護師、週に2～3回マッサージ師の訪問があります。その他の受診の際は家族に対応してもらい、状況報告を書面で作成し、また結果は報告してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回、訪問看護にバイタルチェックを行い時には相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族に様子を聞き早期に退院できるように病院に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族と連携し方針を決めている。	入居時にできるホームで看取りが可能な場合の説明をしています。重度化した場合は、家族と主治医で話し合いの機会を持ち、今後の暮らしについて方向性を決めると同時に看護師に職員向けの研修をもらう予定にしています。これまでに看取りの支援の経験はありませんが、本人・家族の希望を随時確認しながら支援していく方向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成している。その都度の事故報告は対応、検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い全職員が対応できるように努めている。	年2回消防署立ち合いの下、昼間を想定した訓練を行っています。運営推進会議でも火災についての話し合いを行っています。近隣への協力の声掛けは今後の課題としています。	今後予定されている夜間を想定した訓練の実施と地域への協力を働きかける取り組みが期待されます。

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに性格を把握し自尊心を傷つけない言葉掛けをしている。	人権についての法人研修を管理者が受講し、会議で伝達研修をしています。職員は丁寧な言葉遣いや対応に努めています。不適切な言葉掛け等があった場合は管理者より少し時間を置いて1対1になった際に注意をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望などは取り入れ又自己決定ができていく人は洗濯できるように配慮する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先にその人にあった過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の理容師が訪問し希望のある入居者がカラーやパーマをする。欲しい服があれば買い物に行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食事作り等は入居者と共に行い共に食事をしている。	栄養管理された宅配業者の献立を利用し、食材が届きホームで調理をしています。利用者の希望については食材の発注を止めて外食に行ったり、行事食に盛り込まれています。職員は利用者に準備や片付け等出来る事をしてもらい、食事と一緒に摂っています。また、ホームの菜園で育てられた野菜が食卓に上る事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回、記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後は口腔ケアを行なっている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の頻度を記入し声かけや誘導を行なっている。	一人ひとりに合わせて毎日の個人記録に排泄時間を記し、パターンを把握しています。日中はトイレ誘導を行い、声かけすることで失敗が減り布下着になった利用者もあり、自立に向けた支援がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録に排便時を記入し便秘時は医者に指示で下剤や訪看で浣腸をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが本人の希望があれば希望を取り入れるよう努めている。	入浴は10時～15時30分位までの間で少なくとも週2～3回入ってもらっています。希望があれば毎日の入浴にも対応し、夜間の入浴も検討可能です。入浴を拒否する方にはゆっくり時間をかけて誘導しています。また清拭を行うなど個々に合わせて支援しています。入浴が楽しみになるように季節の湯も取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝状況に応じ個々の対応に従った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備の分担をして張り合いにある日々を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴のない日や行ける時は臨機応変に出掛けている。	気候が良い日には近くの公園に散歩に行ったり、喫茶店に出掛けています。外食やスーパーに買物に出掛けたり、また季節の外出にも行っています。現在個別外出にも力を入れており、希望にそって支援しています。	

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用雑費費用のは預かっているが個人で持ちたい場合は家族に同意を得て持ちてもらい職員が残金を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように壁に木を作り入居者と共に季節の風物や花を飾っている。	季節に合わせた飾りがされ、プランターを置いたり、造花を飾ったりしています。利用者の状態に合わせてテーブル配置を変えたり、寛げるソファを設けるなど、居心地良く過ごせるよう配慮しています。また 空気清浄機や温湿度計を設置し環境整備に配慮しています。トイレの扉や床もわかり易く混乱をまねかないように色が変わっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し気の合う同士で話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の要望を取り入れている。	入居時にきるだけこれまでに使っていたものを持ち込んでもらうよう家族に伝えていませす。利用者は馴染みのタンスや机、テレビ、大切にしている位牌や家族の写真、携帯を持って来ています。以前の暮らしと変わらないようにカーペットを敷いて座れるようにしたり、また床の仕様も希望にそうように検討が可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこまで出来るかを把握しどうしたら出来るかなどを考慮し支援している。		